

令和3年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（乾隆幼稚園）

教育目標

心身ともに健やかで、生き生きと遊ぶ子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月21日	学校運営協議会 理事
最終評価		

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- 少人数の園だからこそできる保育を考えると共に、異年齢の取組を増やすことで自律性（折り合う心）を育む保育を実践する。
- 子どもが心身ともに健やかに育つための安全安心な環境づくりを絶えず見直し、改善を図る。
- 子どもが夢中になって遊び、自分の力を發揮し、友達と関わる楽しさや協働する喜びを感じるための教員の援助や環境構成を行う。
- 保育の専門性を高め、子どもの育ちを保障していくために、園内研修を充実する。
- 子ども一人一人へのねらいをもち計画性をもった保育と子どもの姿から一日の保育を振り返り、改善していくP D C Aサイクルの確立（週案・個別の指導計画等の活用）。

（取組結果を検証する）各種指標

- 幼児の姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討
- アンケート項目①「幼稚園は教育目標に向けての保育を行っている」②「幼稚園の環境は安全で子どもが豊かな体験ができるよう整えられている」⑧「子どもは楽しく幼稚園に通っている」⑨「子どもは今夢中になっているものがある」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍とはいって、本年度は4月からスタートを切ることができた。それでも緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が続き、予定通りに進められなかつたことも多かったことは否めない。ただ、子どもたちはコロナ対策を守りながら、日常の遊びを楽しみ成長している。そのための保育者の支援は試行錯誤をしながらも今年度の状況を鑑み取り組めている。・アンケート結果①A90% B10%②A70% B30%⑧A77% B23%⑨A57% B43% (すべて A B 100%)
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・少人数だからこそ力を入れている異年齢の活動も自然に取り組めている。同じ活動をしてもクラスによりそれぞれの付けてほしい力は別なので、さらに検証していきたい。・コロナ対策で消毒をすることや保育中の換気を確認することで、教職員の安全な環境についての意識は高まっている。遊具の補修や木々の剪定など今後も継続していきたい。・園内研修は計画的にできている。週案の活用もできている。援助や環境構成、異年齢の取組など教員の力量を高めることで子どもたちが楽しく遊ぶ姿をより高めたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・園児数が少なく、目が届く長所の反面、関わりすぎる短所もある。異年齢で子ども同士の関りを増やすことと教員の関わり方については絶えず研究していきたい。・コロナ禍の取組も慣れてきたところであるが、今後必要な感染対策と情勢の変化についてはアンテナを広げ、子どもたちがより夢中になって遊べる方策を考えていきたい。・リモートの研修が多くなったが、他園の取組から学ぶこともとても多いので園内研修から他から学ぶところを増やしていきたい。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none">・園の環境や保育がより高みを目指しているか。次年度の園児数も更に減少傾向にあり、異年齢の取組が子どもたちにとって効果的なのかどうかを特に検証する。・保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・乾隆幼稚園を選ぶ保護者の方だから、幼稚園の取組について知っているのが当然である。特に季節の果実や野菜栽培などの取組は良い取組だと考える。異年齢も含めて、色々な取組を進めもらいたい。・幼稚園の紹介ビデオもでき、園児の募集に力を入れているのもよくわかる。無償化や就労、通園の距離、いろいろな要素があるのだろう。・参観ができなくても、幼稚園は毎日の送迎で保護者と顔を合わせ情報交換できるのは良い。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

学校関係者による意見・支援策

(2) 幼小連携・接続について

具体的な取組

- ・ 乾隆小学校、紫野小学校との連携、交流を通して教員の相互理解を図り、幼小の円滑な接続を推進する。(交流のための年間計画)
- ・ 乾隆小学校、紫野小学校、西陣中央小学校への保育公開、授業参観、合同研修
- ・ 小学校期の学びにつなげる「学びに向かう力」の育成を意識した保育を推進する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ 交流の事前・事後の検討内容について
- ・ 公開保育・合同研修の回数・内容
- ・ アンケート項目③「保幼小連携、地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっている」

中間評価

各種指標結果

- ・ 休校・休園措置にはならなかったものの、緊急事態宣言やまん延防止等特別措置が続き、交流についてはほとんどできていない。合同研修どころか参観すらできなかつた前期であった。今年度もコロナ禍により検証しにくい状況が続いている。
- ・ 乾隆小学校とは互いの学校運営協議会の委員となり、日常的に情報交換している。
- ・ アンケート結果③A40% B57%無 3%

分析(成果と課題)

- ・ 今年度も昨年度に引き続き、交流についてはほとんどできていない。教職員が参観に訪れることもほとんどできず、子どもについては皆無であった。
- ・ 行事予定のやりとりや入園ポスターを依頼に行くこと等、必要最低限のことのみであった。
- ・ 緊急事態宣言やまん延防止等特別措置が続き、交流どころか、それそれで保護者参観すらできない状況であった。ただ、実際に対面での幼小連携はできなくても、何らかの方法でつながらなくてはならないと考えている。
- ・ 保護者アンケートからも幼小連携には期待しているが、今年は見える部分は少ないと感じている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ コロナ禍の状況にもよるが、今後、できるようになった時のために校長、園長段階、教職員のところでのつながりはもち続けるようにしたい。
- ・ 今後、後期に向けて、幼小接続がスムーズになるよう合同の研修がもてるようになれば計画し、就学支援シートをはじめ個別の子どもたちの引継ぎもしていきたいと思っている。
- ・ 運動会の練習のため運動場を借りる時に年長児が挨拶するようにしているが、小学校の対応のおかげでより親しみを感じている。今後もできる範囲で直接体験できる場面を増やしたい。学習発表会や生活発表会など子どもの姿を見られる機会が教員にも子どもにももてるようになれば行いたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少連携について、実践できた部分についてはわかりやすく発信する。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもできる幼小連携を考えられたか。特に卒園児を各小学校にうまくつなぐことができたかを検証する。 ・保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で保護者参観ができず、また地域の者が来賓で行事に参加することもできない状況が続いているので、今の幼稚園の様子が話を聞かないとわからない。 ・幼稚園が小学校とつながっていることはとても大切なのでできる範囲で以前のようにできるようつながっていてもらいたい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己 評 価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

(3) 預かり保育について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体で子育てを支えるうえで預かり保育が果たす役割を認識し、地域に周知するとともに、地域資源の活用を含め、その充実を図る。新2号や預かり時間の広報にも努める。 ・安心安全な環境で家庭的な雰囲気をつくる。 ・預かり保育指導計画を見直し、より望ましい活動を実施する。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数とその活動内容や指導計画の見直し状況 ・新2号についての問い合わせ件数、利用家庭の割合 ・アンケート項目④「さくらんぼ組や預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っている」 ⑫「子どもは楽しんで預かり保育に参加している」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数については、年少組の新2号認定でない方が参加できるようになってから21名と増えていい、これは全体の70%に当たる。 ・年度途中にも新2号の新規申し込みが3件あり、現在新2号の利用家庭は全体の28%になる。母
--	---

数が減少してきているが、ほぼ前年と同等と言える。

- ・アンケート結果④A90% B10⑫利用者全体の70%中 A62% B38%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・在園保護者の預かり保育についての認知度は高い。また必要に応じて利用されている。毎年のことであるが早朝預かり保育の希望は少なからずある。
- ・一昨年度まで実施していた預かり保育時のサッカー教室や絵本の読み聞かせについてはコロナ禍のため現在実施できていない。特に日々、体を動かすことをしてほしいという要望もあるので、状況を見て預かりの内容は検討していきたい。
- ・入園説明会の話題の一つにいつもあがる。在園していない層にも広報は必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今後も必要な方に、適正に利用していただくよう、就労家庭からの入園児が増えるように預かり保育の広報に務めるとともに、内容を絶えず考えていく。
- ・狭い空間でもあるので、人数が多くなった時の安全面は絶えず考えていきたい。特にコロナ禍でもあるので換気や消毒も含めて安全、安心な預かり保育を目指す。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・預かり保育や内容を含め、その運用が適切に実施されているか。
- ・預かり保育の制度が十分に認知されているか検証する。
- ・保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・入園児数を増やすことに預かり保育が果たしていることは確かだと思う。早朝預かり保育を実施している園があるのなら情報を得て議論していくとよい。
- ・新2号認定であれば無償化の対象になることや18時までの預かり保育が必要であれば活用できることなど未就園児にも届くように発信する方法も大事ではないか。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

（4）子育ての支援について

具体的な取組

- ・保育公開や自由参観などの教育発信に努め、開かれた幼稚園づくりを推進する。
- ・地域の児童館や地域諸団体との連携を図り、子育て相談や園庭開放を実施するなど、地域の子育て支援センターとしての役割を果たす。

- ・園庭開放を行うことで未就園児保護者が気軽にに入る空間づくりを考える。できだけ未就園クラス「さくらんぼ組」には顔を出し、気軽に相談を受ける雰囲気をつくる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・子育て支援の取組回数や参加人数、教育相談件数
- ・未就園児保護者へのアンケート、聞き取りを実施する。
- ・アンケート項目④「さくらんぼクラスや預かり保育等の子育て支援の取組があることを知っている」

中間評価

各種指標結果

- ・子育て支援の取組や教育相談については、コロナ禍が継続し前期は予定通りにできていない状況である。誕生会の後の「ほっこり子育て広場」も延期のままになっている。
- ・今年度は4月から幼稚園の活動が始まった。幼稚園では保護者の送迎があるため、その時に園の様子を見てもらったり、コミュニケーションをとったりすることはできた。
- ・未就園児の「さくらんぼ組」も4月からできたので、毎回顔を出し、保護者の意見は聞くことができた。
- ・アンケート結果④A90% B10%と在園児保護者には認知されている。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・今年度も休日参観や祖父母参観は中止した。その時を利用して幼稚園での様子の話を聞いていただいていたが、そういう口コミが大きく減少したことは、乾隆幼稚園自体の認知にも影響が出ていると考える。
- ・送迎時の保護者との会話や園庭開放の効果は大きいが、在園児保護者以外に広がっていないことは課題である。
- ・「ほっこり子育て広場」も年度末まで形を変えて再開したい。
- ・「さくらんぼ組」の活動日には必ず園長が顔を出すようにし、いつでも幼稚園の説明ができるように考えたが、新規の開拓にはなかなかつながらなかった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・コロナが落ち着き、行事などの参観ができるようになってくると、保護者や未就園親子を対象とした催しを企画し、在園保護者の生の声を未就園保護者にも届くようにしたい。
- ・ホームページや幼稚園紹介動画を活用し、園の取組を知ってもらうきっかけとする。小規模保育園への働き掛けも強化したい。
- ・さくらんぼ組の日には教職員が意識して、来園者に声掛けをしていこうと考えている。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・未就園児クラスへの働きかけや子育て支援の取組についての実施状況をみる。
- ・保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・保育会（PTA）が「七夕まつり」で「ゆずります会や手づくりバザー」を開催したときに新しい方も含めて、多数来園したと聞く。保護者の生の声は大きいと思うので今後も考えてはどうか。
- ・さくらんぼ組の日数を増やしたり、曜日を組み替えたりはできないのか。難しいが新規の未就園児を増やすことは考えていく必要がある。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり (社会に開かれた教育課程) について

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会委員の方との情報交換や連携強化に努め, 関係者評価を活用し, 教育活動の改善を図る。また積極的に地域の行事に参加するなど, 地域とのつながりを大切にする。 地域の資源を活かした指導計画を作成する。 自園の取組や教育内容をHPや幼稚園地域版だよりで発信し, 開かれた幼稚園づくりする。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> 日々のつながりから, 地域の方々の声を受け止める。 アンケート項目③「保幼小連携, 地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっている」

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> 今年度も昨年度同様にコロナ禍のため地域での参加行事が中止になった。教員のレベルでもつながりがもてなくなり, 子どもたちが地域の行事に出てのアピールもできなかった。2年間のプランクは大きいと考える。 幼稚園が行う地域の方に参加していただいている行事も本年度は中止や縮小での実施になり, 見てももらう機会がとても減った。保護者の方にはこの項目も見えにくくなっている。 アンケート結果③A40% B57% 無 3% 	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域女性会の方が取り組んでいる「乾隆学区『快適でエコな居場所づくりプロジェクト』」に今年も参加させていただき「洛いも」の緑のカーテンに取り組んだ。 乾隆交通安全会の方にはいつも登園時に見守っていただくほか, 徒歩での園外保育時に協力も得られた。 コロナ禍で2年間地域行事が中止になったことで, 次年度に引き継いでいくことが課題であると思う。本園の特色である織機の取組は今年度もご協力を得られる予定である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の方には毎月, 幼稚園のお便りを届ける。その時に直接, 配付するようにして地域の状況を把握するように努める。 コロナ禍でもつながれる内容を考え, できる範囲で地域の方とつながりをもち, 関係が絶えないよう努力する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・西陣児童館との共催での未就園児への取組はできる範囲で復活させていきたい。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々のつながりから、地域の方の声を受け止められているか。 ・保護者のアンケートや日常の保護者からの聞き取りから検証する。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であるとはいっても、地域の方のご協力を得られているのは地域に根差した幼稚園と言える。交通安全会の方が幼稚園の登園まで見守っていただけていることは有難い。 ・地域誌の発行やお便りを配ってもらっていることで、幼稚園の様子がよくわかってよいと思う。ホームページや幼稚園紹介ビデオも考えられていると思う。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

(6) 教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <p>教職員一人一人が生き生きとした姿で子どもと向き合い、心豊かな生活を送る時間を確保する。</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事の精選を考える。 ・働き方改革の研修を行う。 ・会議の効率化と分掌の適正化を図る。 ・教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間への意識と働く意欲 (超過勤務の削減の目標値の設定) ・年休取得率 ・アンケート項目⑦「教職員は生き生きと働いている」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>コロナ禍で仕事内容には変化が出ている。対外的な仕事が減った分、コロナ対策の仕事は増えている。物理的な消毒作業は毎日時間がかかる仕事であるが、心理的な子どもの感染対策を考えた保育についてはもっと時間をかけなくてはいけない。</p>
--	---

- ・行事の精選や会議の効率化については、コロナ禍であるがための外からの要因もあるが、働き方改革を意識した変更も少しづつ進めている。
- ・アンケート結果③A70% B30%

自己評価	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での取組の変化については、物理的にも心理的にも大きなものであるが、校務支援員の配置などの手立てもあり、特定の者に仕事が集中することなく、分担できる部分はうまく調整できている。 ・教職員の人数が少なく、それぞれの仕事が多岐に渡るが、それが計画的に仕事をすることで時間内に仕事が収まるように努力している。必要に応じて年次休暇もとれるよう、互いに協力している。 ・働き方改革については今後も意識して教職員の共通理解を図りたい。
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため変わった部分と働き方改革として変えた部分をしっかりと見極めながら、コロナ収束後を想定して保育を考えていきたい。 ・教職員が生き生き働くことは、このテーマの一番であると考える。自分がやるべきことは勿論、やりたいことも十分にこなした上で、残業が減るように今後も自分自身の仕事について振り返り、個々の段取り力をつけていくように働きかけたいと考える。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・会議の効率化を含め、働き方改革を意識した勤務状況であるか検証する。
- ・年休取得率（年休がとりやすい環境か）
- ・保護者アンケートや意見から検証する。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が生き生き働いているのは、子どもにとっても良いことである。働きすぎにならないように考えることは大事である。 ・コロナ禍で消毒作業など増えているのは大変であるが、今年度も校務支援員などの人員が配置されているのはよいと思う。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策